

第6節 自然との共生

(1) 主な目標と現状

【主な目標】

府民が自然環境を通じて心の豊かさ、うるおいを実感でき、自然と共生する社会の実現をめざし、地域住民の参加によるみどり環境（水とみどりのネットワークであるエコロジカルネットワークなど）の創出などを進めます。

【計画策定時の状況】

森林、農空間においては、都市化の進展や開発行為などによる減少・分断化、担い手不足や高齢化による荒廃化が危惧され、大阪湾においても、自然海岸の割合が低く、干潟や藻場が減少しており、平成12年度の府政モニター・アンケートでは約7割の府民が府域の自然環境の状況を「悪い」と感じていると回答していました。

【現状】

生態系の保全のため、ボランティアによる身近な里山の保全活動をはじめ、府民・NPO・企業等の協働により産業廃棄物最終処分場跡地で森づくりを行っていく「共生の森」構想を推進するなど、府民参加による自然環境の保全に取り組んでいます。

(2) 平成19年度に講じた施策

①生物多様性の確保

■関西国際空港周辺海域の採捕禁止区域普及啓発の実施

【水産課 内線：2763】

関西国際空港は緩傾斜護岸となっていることから、周辺海域ではワカメやホンダワラ等の藻類が繁茂、190種類あまりの魚介類が確認されています。

このため、大阪府漁業調整規則により、1期空港島周辺を水産動植物の採捕禁止区域としていましたが、平成19年4月1日から、新たに2

期空港島周辺にも採捕禁止区域を設定したため、区域拡大について普及啓発を行い、この海域の魚介類の保護を図りました。平成19年度は区域が拡大されたことに伴い、休日に実施している普及啓発事業を80日に増やし実施しました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.290)

②自然環境の保全・回復・創出

■企業との連携による冒険の森づくり事業

【新規・再生】

【みどり・都市環境室 内線：2753】

子どもたちのコミュニケーション能力を高めるなど「こころの再生」を図り、また地域の森林を自分たちで支えていくという意識を高めてもらうため、企業や団体等の参画を得て、放置された森林を整備するとともに、子どもたちが森に触れあい、親しむ場を提供する「冒険の森づくり」活動を行いました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.326)

図-38 中学生による冒険の森づくり活動の様子



■放置森林に関する新たな森林管理システム
【新規】

【みどり・都市環境室 内線：2753】

近年、手入れされずに放置される森林が増加し、災害防止など公益的な機能の低下が心配されることから、森林の手入れを所有者だけにまかせるのではなく、府民みんなで守り、育てるための新たな森林管理システムを平成18年度に構築しています。

このシステムの実行にあたり、森林所有者や府民、ボランティア団体、企業等と行政が協働して取り組むための具体的な目標、関係者の役割、参画方法を明確にする「放置森林対策行動計画」を策定しました。

(環境関連主要事業 (決算額) 一覧 NO.328)

■間伐等実施林分モニタリング調査【新規】

【環境農林水産総合研究所072-958-6551】

ボランティア参加で放置森林対策を進めるためには、樹木の伐倒を伴わない安全で軽易な間伐方法を確立する必要があります。

このため、樹木の形成層を表面から環状に剥離させることで樹木を衰弱させて自然の間引きを誘導する手法が、森林にとっても支障がないかどうかを確認するため、モデル森林でモニタリング調査を実施しました。

(環境関連主要事業 (決算額) 一覧 NO.345)

■魚庭 (なにわ) の森づくり活動推進事業

【水産課 内線：2764】

豊かな海を育てるためには、健全な森林から供給される河川水が重要な役割を果たしていることが知られています。

大阪湾を豊かな漁場として育てるため、森・川・海を一体として捉え、大阪府漁業協同組合連合会が中心となり、漁業者自らが間伐などを行うことにより豊かな森を育てていく「魚庭 (なにわ) の森づくり」活動を支援しました。平成19年度は4カ所 (堺市・岸和田市・貝塚市・岬町) での活動を支援しました。

(環境関連主要事業 (決算額) 一覧 NO.342)

図-39 なにわの森づくりの様子



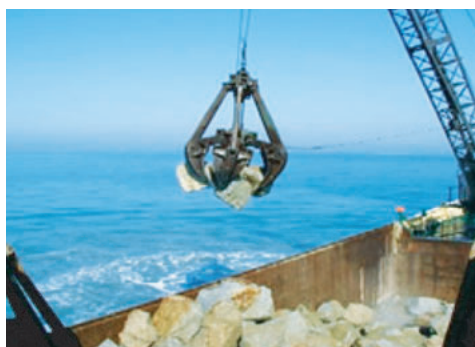
■大阪湾の海域環境の回復・創造

【水産課 内線：2765】

大阪湾における海域環境の保全に資するため、平成19年度は、田尻町地先で魚介類の産卵場、稚仔魚の育成場である増殖場 (自然石や鉄骨魚礁を海底に配置) の造成を行いました。

(環境関連主要事業 (決算額) 一覧 NO.223)

図-40 増殖場 (藻場) の造成



■おおさか農空間づくりアクションプランの実践

【農政室 内線：2775】

平成17年3月に策定した「おおさか農空間づくりアクションプラン」に基づき、府民や多様な主体と協働しながら、「資源循環」、「安全・安心」、「地域づくり」、「交流・共生」の4つの重点分野ごとに環境に配慮した事業を実施しています。

「交流・共生」分野では、寝屋川市等において、学校・地域住民などと連携した生物調査活動に取り組み、農業用水路や農地など農空間の果たしている多面的機能の啓発を図りました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.338)

③自然とのふれあいの場の活用

■オアシス整備事業

【農政室 内線：2774】

ため池を農業用施設として活かしつつ、都市に“うるおい”と“やすらぎ”を与える、地域の貴重な環境資源として、安全なまちづくり、自然環境の保全、教育・文化の推進等を目的とした総合的な整備を堺市の午池(うまいけ)など4箇所で行うとともに、住民参加による快適な水辺環境づくりを行いました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.331)

図-41 ため池オアシス(狭山副池)



■いきいき水路整備事業・まちづくり水路整備事業

【農政室 内線：2774】

農業用水路の改修により、雨水の安全な排水などの防災対策を実施するとともに、親水護岸や遊歩道の整備など、水と緑豊かな水辺環境をつくるため、長瀬川地区他6箇所水路を改修するとともに、親水護岸や水生植物帯などを設け、農業者と地域住民の協働による水辺環境づくりを推進しました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.331)

図-42 活動状況



図-43 水質調査の様子



図-44 透視度の調査



■陶器川環境再生事業【新規】

【河川室 内線：2952】

長年にわたる不法耕作により、河川管理や周辺景観との調和の観点から好ましくない状態が続いている陶器川において、地元自治会など一体となったワークショップを実施した結果、不法耕作物の撤去や、新たな不法耕作の防止、地域の声を取り入れたゆとりある水辺空間の再生を進めていくことで合意し、地域住民との協働により手作りの花壇などを整備しています。この理念をさらに進め、地域に愛される水辺空間とするための整備を行います。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.402)

■ふれあい漁港の整備

【水産課 内線：2767】

漁業活動の拠点としての機能だけでなく、一般府民も容易に近づき楽しむことのできるよう、多目的広場や親水護岸などを備えた「ふれあい漁港」の整備を岬町の深日漁港及び小島漁港で進めました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.369)

図一45 深日漁港における整備状況(干潟部)



④潤いとやすらぎのある都市空間の形成・活用 ■「みどりの大阪21推進プラン」の後継計画の検討

【みどり・都市環境室 内線：2750】

現行の「みどりの大阪21推進プラン」は、自然環境保全条例の規定に基づき、府域のみどりの保全・創出に関する理念・基本方針を示して

いますが、その目標期間の満了に伴い、現状のみどりを取り巻く情勢を踏まえつつ、21世紀の第1四半期を見通した後継計画の検討を行いました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.77)

■みどりのカーテン推進事業【新規】

【みどり・都市環境室 内線：2742】

市街地の限られたスペースである壁面や屋上の緑化は、ヒートアイランド対策の有効な手段の一つです。

一定規模以上の敷地を有する施設の緑化は着実に前進していますが、市街地で大きな面積を占める住宅や小店舗等の小規模な施設においては、整備費やメンテナンス費用が高いことから普及が進んでいません。

そのため、安価で手軽な壁面緑化手法の確立を目指し、学校や事業所等で実施規模や植栽時期、植物、灌水方法等を組み合わせ、様々なパターンの壁面緑化の実証調査を行いました。

また、みどりについて関心を高めてもらうため、子ども達を対象として、植付けや水やり、収穫等の緑化体験イベントを併せて実施することにより効果的な壁面緑化の普及促進を図りました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.386)

図一46 みどりのカーテン



■地域緑化プラン策定支援事業【新規】

【みどり・都市環境室 内線：2742】

自治会や学校など地域が主体となって取り組む地域緑化プラン策定の手引書となる「みどりづ

くりガイドブック」を作成しました。

また、「同ガイドブック」を活用し、市町村職員を対象に活動団体の組織化や緑化プランの策定手法についての説明会を開催するなど、みどりの街づくりに向けた取組みの支援を行いました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.387)

■「水の都大阪」再生に向けた河川環境整備【再生】

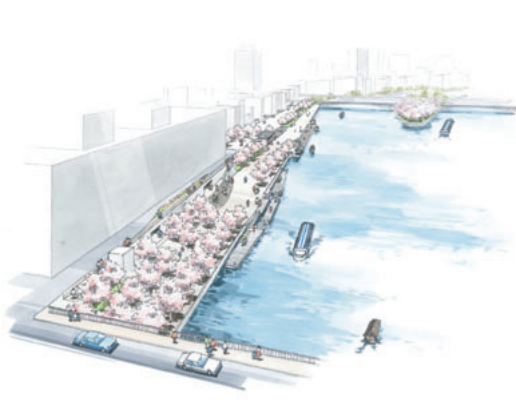
【河川室 内線：2952・2935】

「水の都大阪再生構想」に基づき、親水護岸や遊歩道整備、船着場など、背後地のまちづくりと一体となった魅力ある水辺空間の整備を行います。「水の都大阪」の再生に向け、かつて淀川舟運の港であり、熊野街道の起点でもあった「八軒家浜」において、水陸交通の拠点となる水上ターミナルの整備を進めています。

平成19年度は親水護岸や船着場の管理運営機能・情報発信機能等を有するにぎわい施設の詳細検討・整備を行い、平成20年3月に八軒家浜船着場が開港し、にぎわい施設についても設計・建設から維持管理並びにサービス施設の運営を行う民間事業者が平成20年3月に決まりました。また、旧阪大病院跡地前の堂島川玉江橋上流において、隣接する民間開発と一体となった船着場を整備しました。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.403)

図-47 八軒家浜整備イメージ図



【水の都大阪再生構想】

平成13年に「水の都大阪の再生」が、国の都市再生プロジェクト(第3次決定 都市環境インフラの再生・水循環系の再生)に選定されたのを受けて、平成15年3月に公民協働して取り組む指針として策定

■泉大津フェニックス大規模緑地整備【新規】

【港湾局 0725-21-1411】

近畿圏から発生する廃棄物の最終処分場である泉大津フェニックスにおいて、平成19年度は管理型区画(65ha)のうち、約21haが埋立竣工しました。

この管理型区画において、府民が憩い、くつろげる空間の確保と、港湾地域におけるにぎわい・交流空間の形成のため、大規模緑地の整備を進めていきます。

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.411)

■ロハスライフ支援事業

【農政室 内線：2733・2773】

健康や環境を重視した新しい価値観とライフスタイル(「ロハス ライフ」)を府民に提供するため、増加が懸念される遊休農地等の低未利用地を美しく魅力ある空間へ再生するとともに、「新たなコミュニティづくり」と「コミュニティ相互(都市部と農村部)の多様なつながり」の創造に向け、モデル的な取組みを進めました。

- ・農作業研修や住民交流のための施設の一部整備
- ・都市部における農産物の出張販売

(30回 約3,000人)

- ・都市住民による農村部での農作業体験

(5回 約1,600人)

- ・ロハスライフ支援準備組織の設立

(環境関連主要事業(決算額)一覧 NO.393)